

さまざまな選択

3月のセミナー通信で2020年度の卒塾生の進路先をお伝えし、私立高校への進学を選択した塾生が多数いたと書きましたが、今回はさらに、そのあえて私立を選択した塾生についてもう少し詳しく書かせていただきたいと思います。

まずはAちゃん。3年の2学期まで完全に公立高校志望でした。1年生から真面目に頑張り、高い内申点をいただいて、あとは実力次第ではあるのですが、頑張り次第でどの公立高校でも選べる立場にありました。高校進学にあたって決めていたのは、高校入学後留学するということです。得意の英語をさらに伸ばせるよう、1年間の留学を希望していました。それも、1年生で出発し、2年生に戻るという特別なコースです。通常は1年生で出発したら1年生に戻り、もう一度1年生をやらなければなりません。彼女はその特別な留学を実現するために、いろいろ悩んでとことん調べて、最終的には春日丘高校に進学することが自分にとって最善であると判断したのです。手厚い日々の指導実態、留学に対する細やかなアドバイス、戻ってきてからのフォローの約束—どの高校に問い合わせた時よりも彼女の望んでいた回答がそこからは返ってきました。「それならば特待生で入学したい！」決意してからの彼女は、特進コース3カ年授業料無料の特待生条件である内申点を取れるよう努力をさらに続けました。そして、見事希望通りの合格を果たしたのです。合格後も塾のみんなと2月末まで勉強を続け、卒業式には卒業生代表として答辞も読みました。明るく素直で天真爛漫なAちゃん。留学を夢見ながら、厳しく鍛えられる春日丘高校の中でも笑顔いっぱい頑張っていることでしょう。

続いてMちゃん。小学生の時から通ってくれた彼女も、同じく公立志望でした。地元の教育熱心な高蔵寺高校に進学して大学を目指すつもりでいました。こつこつと頑張っ基礎力を固めてきたので、実力も内申も十分目指せる位置にありました。気持ちに変化が出たのは学校見学に行ってからです。聖カピタニオに行ったとき、その明るくあたたかな校風に心を打たれました。さらに、この学校で頑張っ上位にいれば、私立大学への推薦枠の多さから、希望する大学への近道になるという点にも惹かれました。悩みに悩んだ末の聖カピタニオへの進学決断です。推薦は受けず一般受験でした。人の気持ちがよく分かり、誰とでもすぐに友達になれて、人と人をつなぐ力のあるMちゃん。友達の前で笑っている姿が思い浮かびます。培った基礎力を元に、得意の国語力にさらに磨きをかけて力を伸ばし、夢をつかんで欲しいと思います。

今回は二人しか紹介できませんでしたが、またの機会に他の子も紹介させていただきます。